

南條 早映

Sae Nanjo

Age 23

3歳からレスリングを始め、小学生時代は宝塚市で練習に励んでいた早映さん。その後、全日本選手権や世界選手権などで数々の表彰台に上がり、今では2024年パリ五輪の代表候補の1人に挙げられています。そんな彼女にレスリングを始めたきっかけや今後の目標などについて聞いてみました。

©東新住建レスリング部

覚悟を決めて挑み続ける

市は、子どもたちがそれぞれの力を伸ばして生き生きと健やかに育ち、親も安心して子どもを育み、その成長に喜びを感じられるまちを目指しています。

今回はさまざまな舞台で輝く4人を紹介します。分野は違えど、一つのことの中に夢になり、自分の力を伸ばしてきたことに変わりはありません。子どもたちがどのような夢中になれるのを見つけて、どう成長してきたのか。この特集を通じて、子どもの成長について考えてみませんか。

きっかけは兄の付き添いから

二人の兄が先にレスリングを始め、練習について行ったところ、「楽しそうだな、私もやりたいな!」と感じたことがきっかけでした。最初はマット運動に参加することから始め、徐々にレスリングをやるようになりました。

何度も辞めたいと思った。それでも…

小学校までは宝塚市内に住んでいましたが、中学からはレスリングに打ち込むため、親元を離れて東京で寮生活を始めました。練習の苦しさや試合で思うような結果が残せないことから、何度も辞めたいと思いましたが、オリンピック出場という夢を叶えるために、覚悟を決めて頑張ってきました。

そんな中、一番うれしかった瞬間は高校2年生の時に、全日本選手権で優勝できたことです。同世代と勝負してきたこれまでとは違い、初めてシニアも含めた相手に勝つことができ、大きな自信につながりました。

将来の夢を叶えるために

6月と9月にある選手権大会で勝つことができれば、来年のパリ五輪の代表選手に内定します。小さい頃からの夢である「オリンピック」に出場し金メダルを取る「この夢を叶えるために、日々奮闘しています。

たからっ子へのエール



皆さんもそれぞれ頑張っていることがあると思います。うまくいかず辞めたくなることもあると思いますが、そこからもう少しだけ続けてみてください。そうすれば、必ず楽しいと思える日が来るはずですよ。一緒に頑張りましょう!



カートとの出会いは お父さん

おもちゃと言えば車というほど、小さい頃から大の車好きでした。特に遊園地にあるゴーカートが好きで、何度も乗るあまり、従業員に覚えられるほどでした。そして、小学校2年生の頃、好きなことを生かせるようにと父が勧めてくれたことが、レーシングカートとの出会いでした。

カートの整備は専属の整備士に依頼する人が多いですが、費用の問題もあり、西田家は父が整備してくれます。

初の世界大会。 悔しさからの学び

2021年、バーレーンで開催された世界大会に日本代表として出場しました。各国から72人が集い、予選で36人に絞られます。予選では一位通過だったため、優勝できると意気込みましたが、決勝戦では8位という結果に終わりました。しかし、海外選手のアグレッシブな姿勢やレース展開は非常に勉強になり、刺激にもなりました。

世界での経験を刺激として

F1レーサーを目指す15歳。小さい頃から車好きで、2021年の世界大会には日本代表として出場。レーシングカーとの出会いのほか、お母さんには子どもへの寄り添い方を教えてもらいました。

西田家の子育て論



昔と違い、今は沢山の情報が手軽に調べられるので、本人が興味を持ったことは、まずはいろんな角度から調べてみるのが大切だと感じています。また、私たち親はサポートに徹し、どんな状況でも一歩引いて見守ることを心掛けています。

大好きなレーシングカートをもっと広めたい

F1はモータースポーツの最高峰で、その基礎に当たるのがレーシングカートです。最高時速は120キロほどですが、車高が低いため、体感速度はその2倍以上と言われています。

レーシングカートは他のスポーツと比べるとまだまだ知名度が低いと感じています。皆さんもぜひ一度、生のレースを見に来てください。きっとレースの緊張感や会場の活気に魅了されるはずです。

Tsukihira Nakashima

中嶋 月葉

Age
15

昨年、世界ジュニアゴルフ選手権の日本代表に選ばれた月葉さん。
9歳の妹・雪音さんと史上初となる姉妹同時での代表選抜を果たすなど、代々ゴルフ一家と思いきや……。ゴルフを始めたきっかけや今後の目標について、月葉さんとお父さんに話を聞きました。



ゴルフのすべてが楽しい

父の付き添いがきっかけで…

幼い頃からとにかくスポーツが好きで、野球や相撲、ラグビーなどジャンルを問わず、テレビでスポーツ中継を観ていました。

5歳の時、仕事の関係でゴルフを始めることになった父に誘われ、練習について行くことに。大人用のゴルフクラブを使って、ボールに当てるのが楽しかったことを覚えています。その後、両親と一緒に毎週1回レッスンを受けるようになりました。

ゴルフ以外にも色々な習い事をしましたが、今でもゴルフが一番大好きです。試合はもちろんのこと、週5日の練習も苦にならず、日々ゴルフに明け暮れています。

学校に行くことが楽しい

ゴルフは大きな大会になると平日に行われることが多く、コースによって形状や傾斜が異なるため事前の下見が必要です。そのため、学校を欠席することも。ゴルフの練習は楽しいですが、友達とおしゃべりすることも同じくらい好きなので、いつしか学校に行くことが一種の息抜きになっていました。

そのほか、好きな音楽を聴くことでリフレッシュしています。

将来の夢はオリンピック

ゴルフの良い思い出はたくさんありますが、一番うれしかったのは、昨年開催された世界選手権の代表選抜大会で優勝し、日本代表に選抜されたことです。同時に、妹も同大会で優勝し、史上初となる姉妹での世界ジュニアゴルフ選手権出場を果たしました。

将来の夢であるオリンピックで金メダル獲得という目標に向けてこれからも頑張ります。



中嶋家の子育て論



子どもの成長を後押しするためには、どれだけ時間を作ってあげられるかが大切だと思います。例えば、冬場の寒い中でも練習に付き添い、コーチの話を一緒に聞くことを普段から心掛けています。また、時には息抜きも。大会で遠方に行くときには、とんぼ帰りするのではなく、遊園地などその地域で遊べる場所を探しています。

そうすることで、子どもは安心して好きなことに夢中であり続けられると思っています。これからも練習を重ね、いつか姉妹で同じ大会で競い合う姿を見ることを楽しみにしています。

国旗との出会いは
シールブック

少しでも学びになればと、2歳のときに買い与えたシールブックが国旗との出会い。国旗のシールを世界地図に張り付けて遊んでいくうちに、少しずつ学んでいったようです。その後、3歳で約200あるすべての国旗だけでなく、各国の位置や首都を覚えたほか、平仮名やアルファベットも習得しました。吸収の速さに本当に驚きました。

パパと合格できてうれしい！

同世代の子どもが検定に合格したニュースを見て、本人に受験を勧めたところ、受けてみようということになりました。試験の10日ほど前から対策テキストで勉強して試験に臨み、昨年12月に合格。本人は「パパと合格できてうれしい」と喜んでいました。今は、英語を勉強して、いろんな国に行ってみたいと話しています。

楽しく一緒に遊ぼう

子どもが熱中することを見つけるためには、とにかくいろんなものを見て、いろんな場所に行くことが大切だと思います。勉強として強要するのではなく、親子で一緒に楽しく触れさせてあげることが心掛けています。

興味を持ったことは
楽しく
突き詰める

国際知識検定国旗の最上ランクである一級(親子部門)にわずか4歳で合格した律くん。
検定受験に至った経緯や子育てで心掛けていることなどについて、お父さんから教えてもらいました。

たからづか KIDS キッズ

市内で頑張る
たからっ子募集

部活動や習い事、ボランティアなど、さまざまな活動を頑張っている子どもたち！あなたの活動を市の子ども向けホームページ「たからづか KIDS」で紹介しませんか？たくさんのご応募をお待ちしています。

対象 市内在住・在学の高校3年生までの年齢に相当し、自分の意思で掲載を希望する子ども

掲載内容 名前、学年、所属・チーム、頑張っていること、目標、実績、写真など

申し込み ホームページから。申込者には後日、掲載案と保護者同意書をお送りします。

たからづか KIDS
ホームページ

国旗を例に挙げると、最初から国旗シールではなく、地図を与えていたらここまで続けていなかったのではと思います。手に取りやすいシールで国旗を覚え、その後、地図で国の場所を覚え、さらに、首都や言語を覚えるといったように、興味を持ったことを段階的に広げること、知識をより深めていくことができるのではと感じています。

これからも、国旗に限らず、自分が興味を持ったことを楽しく突き詰めていってほしいです。